

HDS028-01

会場:302

時間:5月23日 16:30-16:39

地震動予測地図：関連する研究成果の融合と今後 趣旨説明にかえて Seismic Hazard Maps in Japan : purpose of the session

干場 充之^{1*}, 杉山 雄一², 山中 浩明⁴, 森川 信之⁴

Mitsuyuki Hoshiba^{1*}, Yuichi Sugiyama², Hiroaki Yamanaka⁴, Nobuyuki Morikawa⁴

¹ 気象研究所, ² 産業技術総合研究所, ³ 東京工業大学大学院総合理工学研究科, ⁴ 防災科学技術研究所

¹Meteorological Research Institute, ²AIST, ³Tokyo Institute of Technology, ⁴NIED

阪神淡路大震災を契機に設置された地震調査研究推進本部では、主要な活断層や海溝に沿う領域で将来発生する地震の長期評価を行い、それらの地震が発生した時に各地で生じる揺れの強さを予測する強震動評価を実施してきた。さらに、将来の地震による強い揺れに見舞われる確率やその揺れの強さ等を地図としてまとめ、2005年に「全国を概観した地震動予測地図」を、2009年には高度化版の「全国地震動予測地図」を公表している。一方、各地方自治体でも、それぞれの地域の特色を盛り込んだ地方版地震動予測地図を作成しているところもある。

これらの地震動予測地図は、地震観測および調査研究の進歩により得られた知見とデータの積み上げに基づいて、地震動予測手法の改良、地下構造調査とモデルの改良、主要活断層帯の調査と震源断層モデルの構築等が盛り込まれており、これらの研究成果を融合させた集大成ともいえる。

この地震動予測地図に反映されている技術はどういったもので、どのように融合されたのか。また、新たに認識された課題は何なのか、そして、今後、何をどのように解決していかなければならないのか。さらには、このような地図は現場ではどのように活用されてきているのか。地震防災のための利用促進のカギは何なのか。これらの点を改めて考えてみたい。このような背景のもと、日本地震学会強震動委員会と日本活断層学会、物理探査学会の共同提案をうけて、本セッション「地震動予測地図：関連する研究成果の融合と今後」を開催することとなった。

本セッションでは、招待講演として、全国地震動予測地図の作成や公表についてのレビューをお願いしている。また、予測地図を利用者側から見た場合のレビューについても紹介してもらう予定である。

地下構造、活断層や強震動から利用促進までを含んで、地震防災に関して幅広い議論をしていきたい。

キーワード: 地震動予測, 地図, 活断層, 地下構造, 強震動, 地震防災

Keywords: prediction of strong ground motion, hazard map, active faults, subsurface structure, strong ground motion, disaster prevention